

【市民フォーラム報告】

第1回日本基礎老化学会『市民フォーラム in 松本』を終えて

～新しい生活様式を実践する中での集い～

丸山 光生

国立長寿医療研究センター 副所長

2019年の暑い夏、旧盆を終えた8月半ば過ぎに避暑地としても有名な長野県松本市に一年後に行う予定の第1回日本基礎老化学会『市民フォーラム』の候補地として清水孝彦庶務理事と訪問したことから、このイベント計画が始まりました。これまで私たちの学会の研究成果や学問領域の内容を学会員、あるいは周りの研究者と議論すること以外に一般市民のみなさんに直接、易しくお伝えする機会は年一回の学術集会（年会）の折りに「市民公開講座」という形で開かれたことはありました。同じように毎年開かれるシンポジウムも同じようにopenな学会として、学術的に内容のある話題を毎年、学会役員を中心とした先生方に世話人をして頂き、これも今年度で41回を数える歴史を積み上げてきました。一方で老化・老年病に関する研究分野は日本に限らず、地球レベルでの人口の高齢化が進むにつれて、より身近な研究として広く人々に受け入れられるようになってきました。こうした時期であるからこそ、健康長寿社会に関心をお持ちの一般の方に一人でも多く、私たちの活動を知って頂くことを目的に『市民フォーラム in 松本』を



会場となった信毎メディアガーデン（松本市）

開催する運びになりました。ただ、年が明け、新年度が始まる頃には緊急事態宣言が発令されるほど、大きく国民の生活様式を改めざるを得なくなった新型コロナウイルス感染症の流行が始まることなど、誰一人予想もしていませんでした。世界中からCovid-19禍の情報が聞こえて東京五輪が延期されるなど、色々な変化が起こり始めてもまだ、11月には落ち着くだろうと願う気持ち半分で、Web開催、ハイブリッド開催の選択肢も検討しつつ、打ち合わせ方法等も含め次々と開催に向けた内容が変更されていく中であっても、計画そのものがなくなることだけはありませんでした。

結果的には、耳の良い方（？）には第三波の足音がひょっとして聞こえていたかもしれない11月7、8日の2日間の日程で「三密を避ける」少ない人数での開催という制限つきではありましたが、我々としても経験したことのないYouTube配信を含めたハイブリッド開催と言う形で「老化の基礎研究が導く健康長寿社会」を



「市民フォーラム in 松本」の開催案内ポスター

連絡先：丸山光生

〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430

TEL：0562-46-2311

FAX：0562-48-8719

E-mail：michan@ncgg.go.jp



開催当日、「受付」付近の様子



特別講演 菅谷 昭 松本大学学長の講演風景

全体テーマに松本市信毎メディアガーデンを会場として無事に終えることができました。これは、開催に向けてご尽力頂きました松本市役所をはじめとする行政関係の皆さん、また講演を快く引き受けて頂いた地元大学の先生方、またねばり強くご支援いただいた松本コンベンション協会や信毎メディアガーデンの皆様のご高配のおかげで、この場を借りてあらためて深く御礼を申し上げます。

2日間に跨がった初日は第1部として、「日本基礎老化学会がつなぐ研究と社会」と言うサブテーマで前半は「基礎老化研究の歴史と展望」という切り口で「カロリー制限」、「老化モデル動物 SAM マウス」「細胞老化」について、学会役員として現在も活躍されている重鎮の3名の先生のお話について、午後からは誌上開催となった第43回日本基礎老化学会長崎大会でもご発表頂いた先生方に「基礎老化研究の紹介」というセッションで7名の先生が休憩を挟んで最前線のお話を分かり易く、説明して頂きました。二日目の第2部のサブテーマは「知っておきたい老化・老年病の研究」で、より市民や一般の皆さんに聞いて頂きたい内容を集めました。松本市役所 健康福祉部の樋口 浩部長による行政施策説明のご挨拶から始まって、基礎老化学会発の企業との共同研究成果を午前中に基調講演として行ったのち、午後は松本歯科大学、信州大学、松本大学といった地元大学でご活躍の3名の先生に加えて、今年3月まで4期16年、松本市長として市制をまとめられ、松本市を健康寿命延伸都市とし

て高齢化社会のモデルのひとつまでにされた菅谷 昭先生（現・松本大学学長）にも「健康寿命延伸の最終目標：「生きがい創出」の都市戦略」というタイトルでご講演頂きました。ご自身で「すでに後期高齢者ですので、」と仰る時の笑顔とは対照的に講演の最後に「successful agingをめざすことが、健康寿命延伸すなわち“生きがい”の創出につながり、市民一人ひとりが意欲的に「自分磨き」に励み、“生きることの喜び”を実感して下さい。」と力強く語っておられたのが、とても印象的でした。

2日間の講演がすべて終わった後、2日目の先生を中心に会場の市民の皆さんとのパネルディスカッションが一問一答形式で行われ、ここでも健康寿命に高い関心を持っておられる市民の皆さんが尋ねた質問の答えを熱心に聞かれていました。

終わってみれば、今回実際に足を運んで下さった参加者は7日が56名、8日が61名、またYou Tubeによるオンライン配信での視聴回数は7日が33回、8日が28回という数字になりました。会場は200名収容の規模でしたが、コロナ対策を鑑み、半数の100席弱の椅子を設置し、その半分程度が埋まった勘定になります。受付付近に消毒や検温装置を準備し、参加者一人一人に健康チェックシートを記入してもらうなど、今までになかった対応に追われたイベントにはなりました。しかし、参加して下さいた皆さんの多くは「対面で受け答えする、見聞きするメリット」、「リアル開催で伝わる空気感」など、参加意義に対しては好意的な意見が多かったと聞いています。個人的にもこのフォーラムを終えて、今後の学会、イベントのオンサイト開催は単純に大きさ、規模が重視されるものから、内容、質が問われる形に変化し、ますます研究、発表の中味が議論されていくのではないかと、そして器の小さな私たちの学会にも活躍の場が増える事を願っています。

最後に当日、皆さんの前でも申しましたが、あらためて我々を温かく迎えて頂いた松本の皆さんに感謝しますと共に、このようなフォーラムを今後も続けていくこと、そしてまた会を重ねる中で、またいつか松本で開催できることを楽しみに老化研究に精進していくつもりです。



熱心に講演を聞く市民のみなさん



パネルディスカッション後の記念撮影